



クラコフ歴史博物館

8月16日(日) クラコフ 天気：晴れ昼一時雨

8時30分バスでホテルを出発し、『シンドラー工場跡(クラコフ歴史博物館)』へ。ガイドはリシャードさん。独学で日本語を学ばれたそうですが、とても流暢で私達の質問に丁寧に答えて下さいました。シンドラー工場は多くのユダヤ人を救ったオスカー・シンドラーが経営したエナメル工場で、第二次世界大戦中は同じ機械を使い弾薬を作っていました。それにより沢山の財産を得ましたが、ユダヤ人従業員に対して強制的でなく優しく、千数百人のユダヤ人をナチスから救いました。S・スピルバーグ監督の『シンドラーのリスト』でも描かれています。2010年にクラコフ歴史博物館として、1939年から1945年ナチ占領下のクラコフにおけるユダヤ人の様子を常設しています。

館内は部屋ごとにその時代のクラコフの町の様子を再現していました。肌の色や髪の色に関係なく平和に保たれた生活から、開戦とドイツ軍、ソ連の侵略の時代、その後、ドイツ軍の一部となり、1939年からナチスによる迫害の時代へと進んでいきました。最初に迫害に遭ったのはポーランドの知識者達だったそうです。さらに進んでいくと、1941年クラコフにGETTOが建設された当時と同じく、高い壁と暗くとても閉塞感を感じる廊下を通りました。

このエリアはとても暗く、写真撮影やメモをとることも難しく胸が締め付けられる思いでした。ナチスドイツによりGETTOの高い壁でユダヤ人は完全に隔離され迫害を受けましたが、その後さらに強制収容所、ホロコーストへと悲劇は続いていきます。暗くぐにやぐにやとした足元の不安定な部屋を抜けると、明るく円柱の巻物が囲む部屋に辿りつきました。この部屋には音楽が流れており、勝田先生が「ヘブライでこれはチェロの音ですね」と教えて下さいました。ここまできると皆の顔にも光が戻って表情も和らぎました。



博物館内(ガイドのリシャードさんの話しを熱心に)



明るい円柱の部屋へ

博物館の見学を終え、バスで次の見学地バベル城へ。11世紀から16世紀のポーランドの歴代王の居城として使用され、大聖堂や王宮等の建物を見学しました。王宮は3階建てになっており、16世紀バロック様式の特徴的な丸石を用いた外壁や、沢山のタペストリーで飾られた部屋、歴代王室の肖像画等膨大なコレクションを見学し、お腹も空いてきた所で、午前中の見学を終えました。

(Dグループ：Y.O.記)



中庭から見たバベル城大聖堂